

## 第25期 科学者委員会 学協会連携分科会 第9回分科会議事要旨

- 1 日時 令和5年8月4日（金） 17:30～19:20
- 2 場所 オンライン会議
- 3 出席者 溝端佐登史委員、若尾政希委員、小松浩子委員、丹下 健委員、望月眞弓委員、高田保之委員、田近英一委員、米田雅子委員、高倉喜信委員、北川雄光委員、熊谷日登美委員、中野義昭委員、川口慎介委員、山口 周委員  
欠席者 勝野正章委員、小林武彦委員  
事務局 内山貴裕、大越詳一

### 4 議題

#### (1) 前回議事録の確認

- ・米田委員長から資料1に基づき、前回議事録について説明があり、承認された。

#### (2) 第25期における学協会連携分科会の活動について

- ・米田委員長から、資料2に基づき、25期の活動内容が説明された。活動の主な内容は、分科会での審議の内容、記録の公表、報告会の開催であった。

#### (3) その他

- ・高倉委員から、資料3にもとづき、新たに発足した日本薬系学会連合の状況について報告された。委員からは、3年近くを要した準備プロセスが評価されるとともに、連携の重要性が指摘された。次いで、米田委員長から、資料4に基づき、防災学術連携体の活動状況が説明された。最後に、熊谷委員から、資料5に基づき、任期付き雇用についてのアンケートを取りまとめ、若手・氷河期世代研究者の待遇改善が研究力強化につながる課題が報告された。氷河期世代の不安定な雇用の状況は研究力の制約要因にもなっており、その改善を求めた要望を文部科学省に提出している。委員から、現実を知ることの重要性とともに、研究人材の育成への悪影響、それぞれの分野での任期付き研究者の境遇、日本学術会議としての対応の必要性などが指摘された。あわせて、望月副委員長から、日本学術会議幹事会での任期付き雇用の雇止め問題に対する対応状況が紹介された。
- ・その他の課題として、望月副委員長から、協力学術研究団体の承認要件に関して、特定の県名を付した団体の扱いについての可否に関する問題提起があり、意見交換を行った。
- ・26期への引継ぎに関連して、望月副委員長より25期に日本学術会議の在り方をめぐり学協会との間で対話の場を持てたことが積極的に評価された。その後、委員全員からの意見聴取が行なわれた。協力学術研究団体と日本学術会議の連携を強める必要性、団体の承認要件の再考と既存団体の見直し、学会にかかわる法人化の動向などが指摘され、引継ぎ事項のとりまとめは米田委員長に一任された。